



The University of Tokyo Tanashi Forest
THE UNIVERSITY OF TOKYO 1868

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

田無演習林

2025



The University of Tokyo Tanashi Forest (UTTF)
Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo

1. 沿革と概要

田無演習林は1929（昭和4）年に東京帝国大学農学部林学科田無苗圃（または多摩苗圃）として林学第二講座（造林学研究室）によって創設されました。その淵源は1893（明治26）年に当時帝国大学農科大学のあった駒場に設置された、林学科附設の苗圃に遡ることができます。1956（昭和31）年に至って管理運営が林学科から演習林に委嘱され、1963（昭和38）年には名称を田無試験地と改めて組織機構の拡充などがあり、次いで1982（昭和57）年には用地の全域が林学科より演習林に移管されました。2000（平成12）年には農学部の大学院重点化に伴って演習林は大学院農学生命科学研究科の附属施設となり、2010（平成22）年からは大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構の設置に伴い、田無試験地所属の教職員は機構を兼務することになりました。そして、2011（平成23）年に行われた演習林全体の組織変更の一環として田無試験地は田無演習林へと名称を変更し、正式名称は東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林となりました。

本演習林が位置する田無キャンパスには東京大学大学院農学生命科学研究科の附属生態調和農学機構、附属アジア生物資源環境研究センターも研究室やフィールドを構えており、これらの組織と協力

して西東京地区に農学生命科学研究・教育拠点を形成しています。

2. 立地環境

本演習林は東京都西東京市に所在し、都心の本郷キャンパスから約1時間と交通の便に優れていることから、多くの教員・学生等の研究・教育フィールドとして活発に利用されています。また、当地は武蔵野のほぼ中央部に位置し、周囲の樹林が開発によって失われてきた中で僅かながらも武蔵野の雑木林の面影を今に留めており、都市の貴重な緑のオアシスとして市民から親しまれています。

本演習林の総面積は8.3haで、武蔵野台地の武蔵野段丘（武蔵野面）上に位置し、海拔高約60m、地形は平坦です。地質は層厚6～8mの火山灰層（関東ローム層）の下に、砂礫層（武蔵野礫層）が続いています。土壌はローム層の上に火山灰層を母材とする黑色土が50～60cmの厚さで分布しています。気象条件は、2011年から2020年までの10年間の年平均気温14.8℃、年降水量1,575mmです。

3. 森林の特徴

武蔵野の森林は古来より人為が加わってきたために林相に原始的な自然要素は少ないものの、本演習林内にはアカマツやコナラ、クスギを主体として、イヌシデ、エゴノキ、ケヤキ、ミズキなどが混

在した雑木林（二次林）が小面積ながら点在しています。林内にはヌルデ、マユミ、タラノキ、ガマズミ、ツルウメモドキ、スイカズラなどの低木や蔓性植物が、また林床には草本類などが種類も豊富に保存されており、武蔵野の植物相を現出しています。その他、各種の見本林（外国産マツやスギ品種、竹類など）、樹木園（約244種、針葉樹63種、広葉樹181種）、試験林（改良ポプラ、メタセコイア、シラカシなど）、採種・採穂園などを配し、これら総面積の2/3を占める樹林は今や都市林として極めて貴重な存在となっています。

4. 施設

①苗畑

本演習林は、前身が造林学研究室の付設林木苗圃であったことから、創設当初から育苗の学生実習および研究に利用されています。苗畑は3箇所があり、第一苗畑0.52ha、第二苗畑0.14ha、第三苗畑0.18haの合計0.84haです。そのなかでも第一苗畑はもっとも活用されており、実習および研究用にアカマツ、クロマツ、スギ、ヒノキの実生苗の育成を行っています。また、挿木、接ぎ木による樹木の増殖や、研究者に委託されたさまざまな種類の苗木の育成が行われています。

②実験室

屋内共同利用設備として、演習林試料調製室と演習林実験室の2



写真1 演習林の樹林を望む
市街地に浮かぶ島のように樹林が見えます。



写真2 第一苗畑における学生実習
マツ苗木の植え替えをしています。

The University of Tokyo Tanashi Forest

室を保有しています。試料調製室は、57.2m²に中央実験台、小型インキュベーター9台などを備え、野外試料の一次処理や昆虫等の飼育培養に活用できるような設備となっています。実験室は、86.6m²に柵付き中央実験台、インキュベーター、オートクレーブ、解剖顕微鏡、蛍光顕微鏡、凍結ミクロトーム、PCR装置、遠心分離機などを備え、分子生物学実験、生化学実験、微生物実験に活用できるよう整備を進めています。

③セミナーハウス

田無苗圃の事務室として、1932(昭和7)年に建築された貴重な木造建築物です。その後、田無試験地、田無演習林の事務室および実験室として利用されてきました。2021(令和3)年3月に事務室および実験室の機能が田無本館に移ったのち、同年に耐震補強工事が行われ、講義室等として利用されており、一般への有料貸出も行っています。

5. 大学教育

本演習林は林学科造林学研究室の管理運営のもとに創設された経緯から、開設後一貫して造林学、特に育苗技術の学生実習地として利用されてきました。現在では他研究室や他大学の実習にも利用されるようになり、野外での実験・観察に主眼をおいた実習が行われています。また教養課程の学生に対しては、都市林における体験活動を主軸とした実習を開講してい

ます。この他、関連する専修および専攻を中心として、学内外の学部学生や大学院生に対し、課題研究のためのフィールドとして樹林地や苗畑を提供するとともに、実験室も有効に活用してもらっています。また、毎年生産しているアカマツやクロマツ等の林業樹種の種苗の分譲、各種立木の枝葉の分譲や伐採利用の希望にも対応しています。

6. 研究

本演習林は各種試験林をはじめとする樹林の他に、苗畑、実験室など屋内外の実験施設の整備を進めており、学内外の研究者にフィールドと実験室が一体となった研究環境を提供しています。研究を下支えする研究環境の整備や設備更新には継続して取り組んでおり、2014年度には林内無線LANおよび



写真4 センサーカメラによる生息動物の調査
林内にセンサーカメラを設置し生息動物(写真はタヌキ)を調査しています。



写真5 実験室

田無本館内に演習林試料調製室と演習林実験室の2室があります。

び電力供給ステーションを整備しました。また気象観測データ、各種動植物の調査データ、林地の管理履歴データなど日々蓄積している研究基盤データもご利用になれます。そうした研究基盤に加え、立地を活かして下記のような都市林研究を推進しています。

①都市林の計画に関する研究

既存の都市林についての情報を収集整理し、私たちの置かれた現代および未来における「新しい都市林」に求められる機能を探究します。それに基づき、機能を実装するための計画の策定や実際の造成、機能の評価検証にも取り組みます。1992年の設定以降ほとんど管理の手を加えていないLTER(長期生態系観測)サイトは都市放置林とみなすことができ、機能の評価における対照と位置づけられます。測定項目の加除を実施し、研究利用の実質化を図ります。また、機能のなかには生態系サービスが含まれますが、それらが農業生態系に及ぼす影響を評価するため、隣接する生態調和農学機構との連携を行っていきたくと考えています。

②都市林の管理に関する研究

都市林の密度管理や整枝剪定、林内衛生などのほか、植栽に用いる樹木等の遺伝資源の管理や繁殖法、育苗法についての研究を推進します。より具体的な例として、非破壊的に樹勢診断した立木を伐採後に再分析し、診断の正確性を検証する実証研究や、造園木や緑化樹を含めた多様な樹木の繁殖技術の確立などが挙げられます。2020年前後において散発的に発生の認められている、ナラ枯れ、マ



写真3 地蔵門

田無演習林の林地とセミナーハウスへの入口です。アクセス良好な新所沢街道沿いにあります。

ツ枯れに対しては何らかの防除策をとりながら、研究的な観点から防除効果の実証にも取り組んでいます。

③都市林の利活用に関する研究

都市林における未利用資源の探索や資源量の調査、利用方法の開発などを推進します。なお、高齢化の進行した現代においては、都市林の利活用や自立的な管理において高齢者を包摂するしくみを探究しなければならないと考えています。多様な関係者間の利害調整のあり方も追究する必要があります。研究課題例として、都市林に産する木材および非木材林産物の収穫、特性評価および販売、都市林での学習やレクリエーション、ボランティア活動に関する研究などが考えられます。

7. 社会連携

本演習林では地域貢献、生涯教育、初等・中等教育支援の観点から、各種団体と連携して「子ども樹木博士」認定会等の公開講座を開催し、森林教育活動を実施しています。また、近隣小中学校の校外フィールドとして数多く利用されており、中学生の職場体験の受け入れも行っています。一般の方々の自然観察のために平日に構内を公開する他、年に数回、新緑や紅葉が美しい季節に休日公開を実施し、年間2000人に及ぶ一般見学者が訪れています。多くの一般見学者に対して学術情報を紹介するQRコードを付記した看板や安全の確保のため現在地を示した緊急連絡先を付記した看板を設置しています。見学路は、日常的に落枝のおそれがないか見回りや作業を実施し、必要に応じて高所作業車を用いて掛り枝、枯れ枝の処理を行っています。2022年度から森林教育パートナー（小中学生の森林教育関連授業の補助）の募集を開始し、毎年の研修で認定された方々がさまざまな小中学校の授業補助に活躍してくれています。



写真6 全木調査

演習林全体の樹木を5年おきに調査し、林相ごとの種構成や森林動態を明らかにしています。



写真7 森林科学基礎実習Ⅰ

森林環境科学専修、森林生物科学専修の学生が育苗に関する基礎を学びます。



写真8 「子ども樹木博士」認定会

毎年春と秋に「子ども樹木博士」認定会を実施し、たくさんの子どもが森林を身近に感じられる機会を設けています。

The University of Tokyo Tanashi Forest

春

アオスジアゲハ



フデリンドウの花



ハンカチノキの花

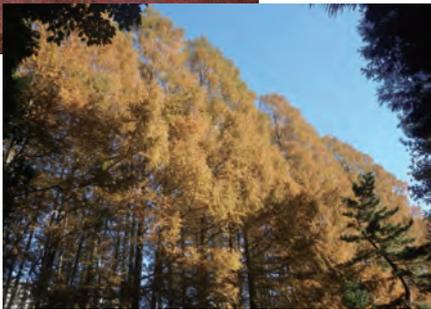
コノシメトンボ



秋



色づく樹木園



メタセコイアの黄葉

夏

ハナオチバタケ



タマムシ



ブラッシノキの花

白銀の苗畑



冬



冬枯れの樹木園



ロウバイの花

利用案内

利用の手続き

・研究・教育利用

本演習林を研究・教育のために利用するには、田無演習林研究・教育利用申込書（規定用紙）に必要事項をご記入の上、原則として利用（または利用の開始）を希望する日の前月15日までに、田無演習林へ提出して下さい。

・見学・学習利用

平日（月～金、ただし年末年始および祝日を除く）の午前9時から午後4時半まで、一般の方も見学・学習に利用いただけます。9人以下の場合はセミナーハウス玄関右手の台に備え付けてあるノートに記帳願います。10名以上の人数または小学校・幼稚園・保育園・市民グループ等の授業や活動の一環として利用する場合には、利用日の前月15日までに、見学利用（団体）申込書（規定用紙）を提出し、許可を受けて下さい。

・セミナーハウスの利用

田無演習林では、研修や会議等でお使いになれるよう、セミナーハウスの各部屋の貸し出しを行っています。利用を希望される方は、貸出内規をお読みになり、使用の2週間前までにセミナーハウス講義室等使用願（規定用紙）を提出し、許可を受けて下さい。

規定用紙はウェブサイトからダウンロードすることができます。

利用の窓口

田無演習林教職員室

〒188-0002 東京都西東京市緑町1-1-1 田無本館1階107号室

TEL 042-461-1528 FAX 042-461-2302

アクセス

【駅から徒歩】

- ・西武新宿線田無駅北口より徒歩約20分→東京大学田無キャンパス正門より入る

【駅からバスを利用】

- ・西武新宿線田無駅北口より西武バスひばりヶ丘駅行（境04）で約10分の六角地蔵尊前バス停下車
 - ・西武池袋線ひばりヶ丘南口より西武バス武蔵境駅行（境04）で約15分の六角地蔵尊前バス停下車
 - ・JR中央線武蔵境駅北口より西武バスひばりヶ丘駅行（境04）で約25分の六角地蔵尊前バス停下車
- バス停そばの六角地蔵尊交差点を保谷方面に曲がり、徒歩約5分の東京大学田無キャンパス正門より入る

※9名以下の見学のみ場合は六角地蔵尊交差点より徒歩約1分の地蔵門より入る

東京大学大学院農学生命科学研究科
附属演習林田無演習林位置図



注意事項

森林に関する「研究・教育」のための施設です。以下のルールをよく理解し、見学・学習利用をお願いいたします。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

<禁止事項>

- ・「食事・飲酒・喫煙」
- ・「レジャーシートの使用」
- ・「動植物（落ち葉・どんぐり・土等も含む）採集」
- ・「巡回道路以外（林内）立ち入り」
- ・「自転車・オートバイ等による見学」
- ・「自動車の乗り入れ」
- ・「ペット類の同伴」
- ・「小学生以下の児童のみによる見学」

<皆さまの安全のために>

演習林内は自然に近い環境であるため、思わぬ危険に遭遇する可能性があります。ハチやカラスによる攻撃、熱中症、枝の落下などに十分ご注意ください。

セミナーハウス使用料等一覧表

室名	面積 (㎡)	定員 (人)	1時間あたりの使用料 (円)	飲食	備考
講義室	73	30	1,000	可	講義準備室、更衣室の利用可 無線LAN利用可
会議室	58	24	1,000	可	無線LAN利用可
工作室	44	20	1,000	不可	更衣室の利用可 無線LAN利用可



東京大学大学院
農学生命科学研究科附属

演習林

The University of Tokyo Forests,
Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo



東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林

【教職員室・実験室】〒188-0002 東京都西東京市緑町 1-1-1

TEL 042-461-1528 FAX 042-461-2302

【林地・セミナーハウス】〒188-0002 東京都西東京市緑町 1-1-8

ウェブサイト <https://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/tanashi/>

E-mail tanashi2010@uf.a.u-tokyo.ac.jp

表紙写真 田無演習林セミナーハウス
1932（昭和7）年建築。